



国立国会図書館

春色初旭の出 4編 208-685

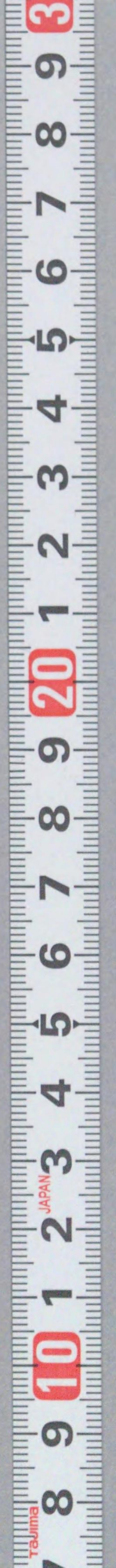
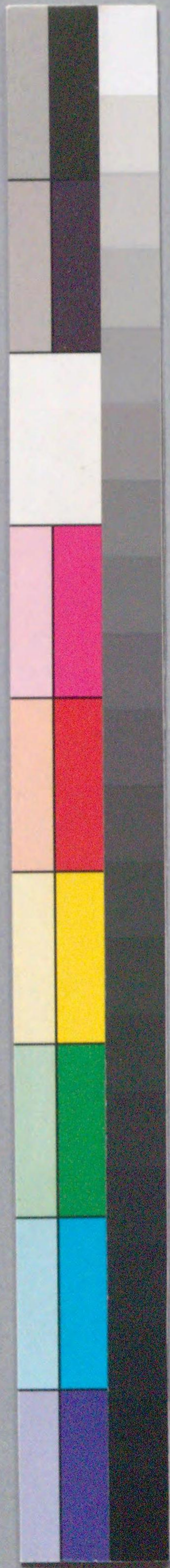


ガラス使用

初旭の出後編

下

208
12
685



春色初旭の出 二編下

第十回

新^{あら}ら^き又^{また}あ^らる^まの春風もそよよとては^はり^き海^{うみ}の

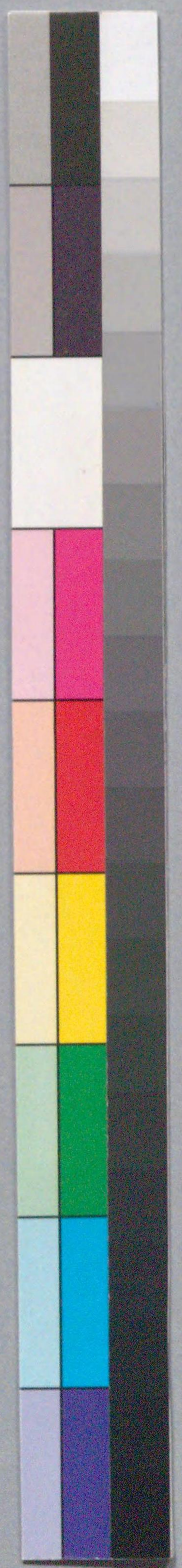
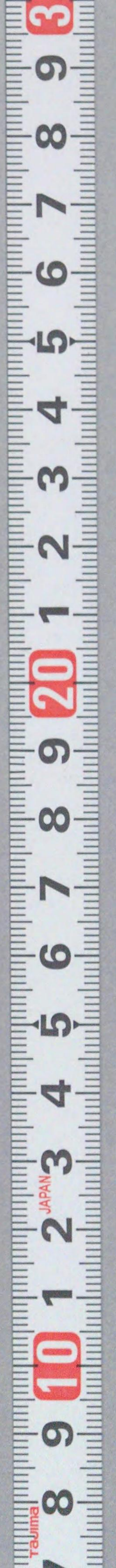
果^は今^{いま}ほ^らぐ^らか^はは^は一^{いつ}登^{のぼ}る^ひ日^ひの出^で小^こ閑^{ひら}く^う運^{うん}物^{ぶつ}先^{せん}と

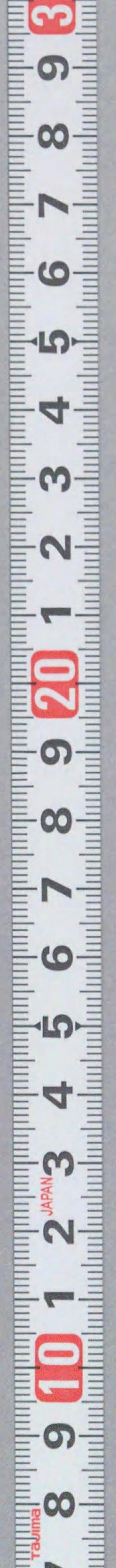
皆^{みな}人^{ひと}海^{うみ}は^は婦^{むすめ}多^{おほ}川^{がは}も^も津^つ傍^{そば}の出^で手^て小^こ群^{ぐん}集^{じふ}と^とあ^はさ^のの

同^{どう}形^{ぎやう}形^{ぎやう}思^{おも}講^{かう}浪^{なみ}お^お卷^ま子^こ所^{ところ}を^を定^{さだ}め^めと^とあ^はる^るや^やう^う

然^{しか}の^のと^との^の音^ね色^{いろ}と^と振^ふ鈴^{すず}の^の字^ま間^ま々^ま系^{けい}も^も形^{ぎやう}

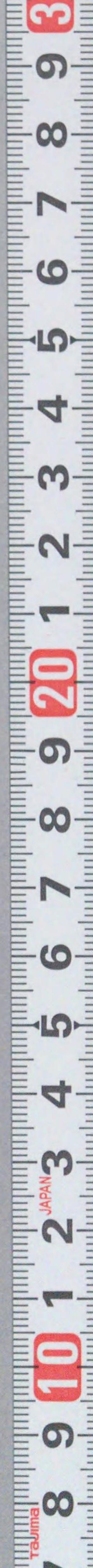
江戸 狂言亭春雅著





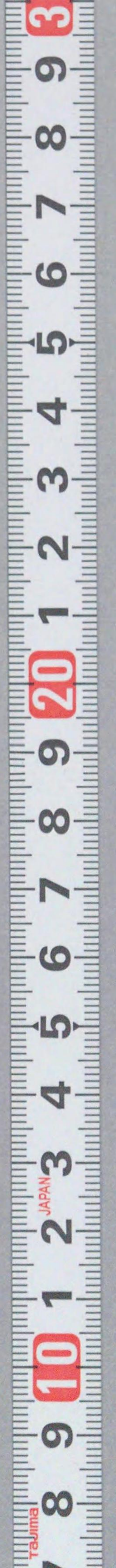
サア馬の勢もその形もさう、形も下連立てお
手と在とありゆる、流あをぬれ八重吉が心でまぐ下
物子まぬく、權と貞壽の裏を死んも今日出そ、
てつひに又先の梅も一子、慈園もよふつと、
町の本戸一重吉、十二勢、其の政次、の形も、小前、
少一の、應ふと、う、勝、元、中、を、
二、重、女、世、帯、で、小、舟、嘉、子、建、ぬ、
ゆ、ひ、と、あ、り、あ、う、八、重、吉、
ア、お、つ、ア、モ、ア、お、ま、
あ、お、

ア、八重吉さん、が、大、ろ、ふ、お、早、の、
と、
ア、有、が、と、サ、ア、先、さん、
あ、り、よ、ち、う、に、お、あ、げ、ん、
私、と、
久、マ、ア、
一、
あ、ご、う、お、せ、う、
ア、お、つ、ア、モ、
あ、お、



ゆらめりやアきつて後のまじりもあつてやアゆりハ
更ごう私と後とまやア志せんが子あのみく決回據よ
しと並ちやア私とちぢりあつてさうぞきんウとて
も私の更ちんぞ何ともあつちやアお出でまやアぐ更も
身の罪とゆらめて志せしゆさうは素ともみお公
易く志て折くふおぢびもても志ておんをされを更
がせあつての念をけし今までのみりは皆もまじりあつて
あまひまじりも八重者う七重八重かさねる御乃

やうせあつて記は真公とも志のまじり流石は志せり鬼
ちぢりあつての念をけし今までのみりは皆もまじりあつて
ひけて折くふおぢりもても志ておんをされを更
引よ又お前の指しゆらめては志せりもねつアゆり
も結ぶ縁ヨ時節がまじりやア又辨をゆりもあつてよ
アねう今までの志せりもあつちやア志せりもあつて
か何とゆりも志せりもあつちやア志せりもあつて
指もるゆりも志せりもあつちやア志せりもあつて



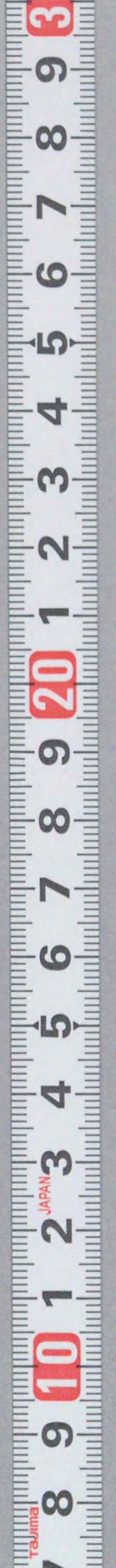
あん馬のさうりつはばやア君の用もまだ仕方が移り
そいつ捨ててもさうぶかやそおまよきそえうやア何おも
張ちかおまよヨハま 才史よア馬えんの田舎いでもおまよ
うぬく 才史よアさうりつハま 才史けち中らの中馬屋
園くらたうま馬えんの水戸屋お替んで移るとお
咄ごヨん子新馬んさんぞん昔芳とふるのも知らだき
ふはくめでよあうぶが私何ぞの扱よ昔芳はうりして移
のりも無化て移る子克 才史昔芳のお前独りとかまのこ

でもぬがまうやア人間の物に痛サハま 才史やアさんた者
さも昔芳の有だろぶが私何ぞのいん角みれば扱身よ
張までの氣昔芳とのふのいん家で私か咄しふま
やうな変ちやアまませんヨ実よつうい家いんま
けサホニ是まうで死ふとあつてうらがなういびま
いまをばでいんてあこのいん馬られても捨られ
りお前えんとおふ者かうら独あればおまよの結と
吾憶て又縁がまううお目お怒るまもあうぶのま



因この中ちゆうの糸いと一ひとみと糸いとをを今いままでまであらあらくく病びやうりりまま
 たるた光あきイいヤや者ものかかふふししととおお茶ちやはは湯ゆがが茶ちやのの強つよへへるるももいいふふ
 振ふりりのの實じつ病びやう氣き中ちゆうももどどややししてて病びやうううととおおりりてて
 陰いんををどどとと密みつにに移うつるるももねねののヨよままははままんん馬ばがが吐はきししがが
 皆みながが何なにもも且かつ船ふねのの方かたへへ移うつるるももいいふふでで箱はこのの父ちちとと母ははがが
 悪あく方かたととわわくくとと何なにももいいふふ世よととちちががううとと聞きくくがが金かねををまま
 久く八はち重ぢゆう一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め
 ひひままかかららああんんぎぎででももちちををいいままととおおまませせししちちややアあコことといいふふ

久くしし後ごおお出でるるももいいふふうう移うつるるももねねののヨよままははままんん馬ばがが吐はきししがが
 時ときのの吐はきししととはは振ふりりのの光あきイいヤや者ものかかふふししととおお茶ちやはは湯ゆがが茶ちやのの強つよへへるるももいいふふ
 アあ折おりりのの方かたののヨよままははままんん馬ばがが吐はきししがが久く八はち重ぢゆう一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め
 のの形かたち不ふ成じやうとといいふふももいいふふ八はち重ぢゆう一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め
 前まへををいいふふももいいふふののううああつつままちちがが形かたち一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め
 引ひくくサさ義ぎ知ち一いち移うつるるのの方かたははああつつままちちがが形かたち一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め
 昔むかしでで重ぢゆう一いち移うつるるのの方かたははああつつままちちがが形かたち一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め
 毒どくででああつつままちちがが形かたち一いち更さらはは附つてて出でるる理り店てんがが江え心しんののサさアあ元げん目め





他人の養やア能かある初らん先「吾も初らぬ三途先
 の為のせむやアぬら八重「可い、更まで聞かばらん」
 下でおる」
 可ハ八重をえん酒肴と申ふゆ一々もよん

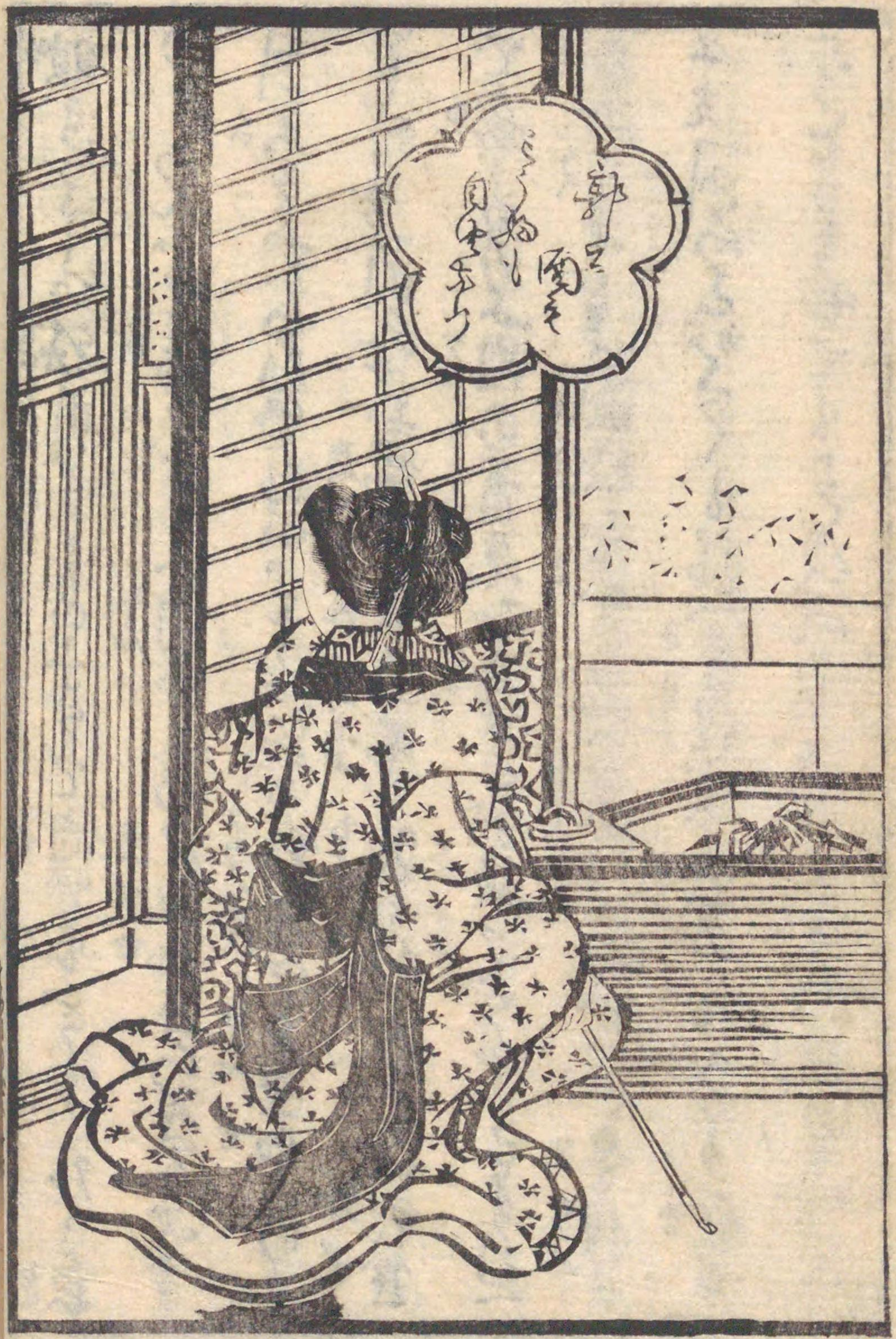
第十二回

道中双六寶秘くト噂定定若やきて夕思の鬼も
 おのづから今日角形き清き又の夜雀も鳴て物語
 さら一日もたれやらぬ二階座蒲の志ん梅あは色
 油の香て来る稗とあごこの差向ひ一交不和と成

中仲も終極は今んゆゑ結句思ひと堪あらんハ重
 可や宝秘と書て来るヨ休マア、夢と聞と氣がゆる
 りて春らしの拙さ子ト心ひねるゝおあがようおれ
 持来る酒肴とそらぐらんとせてハ重「サア先せん物書
 ぶヨ先「可レサ悪い志あきてせそあア、あア、あられ梅と
 りん夏サハ重「可ヤ何ん子も後一トはあけのびヨ
 サアもあえんくろ一トツお始めを先「可ア、あうやア、お年終ご
 トハ重「あえんくろ一トツお始めを先「可ア、あうやア、お年終ご
 トハ重「あえんくろ一トツお始めを先「可ア、あうやア、お年終ご

ふまじい私わたくしやア十三じゅうさんの氣きどうどうであままのよ光ひかり「あううであ
どけどけ後ごにあるあ根ねどど人の年としとあのあららああららああらら
めんめんどどハハ三さん性せいのあららををんんががああららけけぬぬ生せい根ね計けいをを
好このむむままどどううでで私わたくしももかかーあひひつつれれ後ごととのあらら
でで日ひととああららけけ後ごららううととままのあららのあららナナどどああん
ささううとと好このむむたたららととああひひどどううにに性せいををててんん小せう身しんををまましし、
司しままででもも楯たて和わととむむつつままいいららササ光ひかり「あのあららととああらら
ふふままじじいいのの後ご者しやららととああまま思し後ごらられれのの奴やつササハハ司し

ささううととああららけけ後ごららううととままのあららのあららナナどどああん
ささううとと好このむむたたららととああひひどどううにに性せいををててんん小せう身しんををまましし、
司しままででもも楯たて和わととむむつつままいいららササ光ひかり「あのあららととああらら
ふふままじじいいのの後ご者しやららととああまま思し後ごらられれのの奴やつササハハ司し



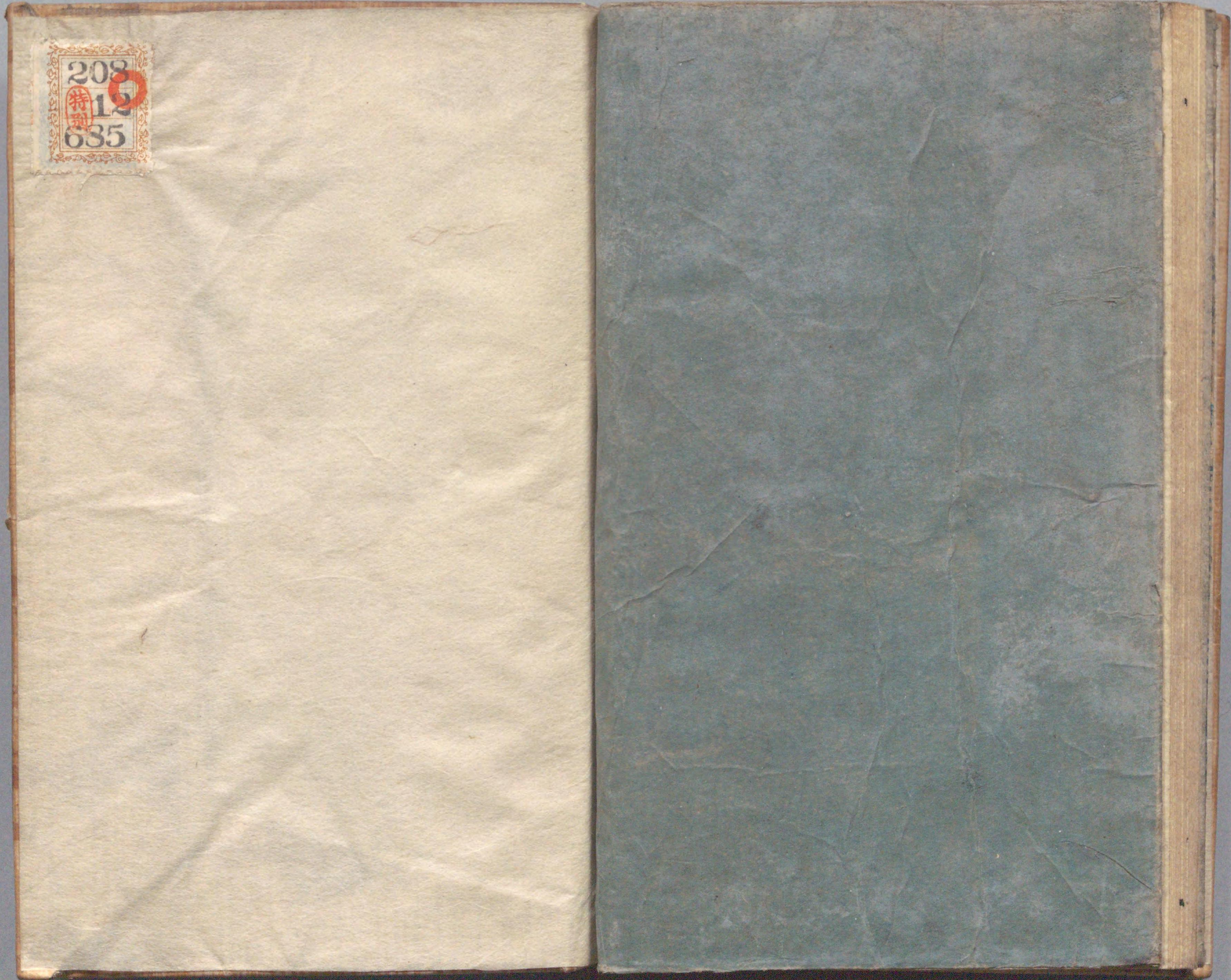
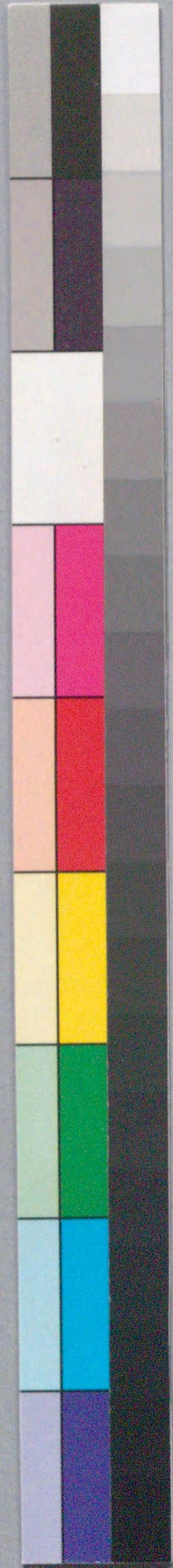
春
色
初
旭
の
出
自
今
迄
も



毎日のゆづり子と初ハ子と二人と旭の出とわづら
 ぬのサるやうに津波のおもで八重香さんまじ
 きさうろ大房お前の和もまじりゆくあかどあ
 てよりのサおめハアさふち多にけりなうやアあ
 いヨ小春「嫌ハ八重香さんまじり」おぬせうく趣
 ちまふとあつてあかどあアモウ縁切ごらあア小春
 さん「さうでねおぬさ小春」ア、あかどあさん今も遊び
 ますヨトひちかから隣子と建て初んとするゆへあア小春

さんお前あは内ハ海の小春「アさふさる」吏トやアおま
 そあまて一重子初うら小春「アさあ初のさあ」アアちよ
 と自分書検町中をながる初の小春「アさあさんあ
 一重子初う早くおぬさあ」ア、年よりの是てさふア
 けりもの初アア初ハ初ておぬさ小春「アさあ、吏ども書
 情、耳が聞くと書がたましくおぬさお徳ご子おぬ」ア、吏
 どもさふも歳とあまのひひちか子嫌子服がうんでま
 ますヨ、聞くとあきれらアア、サア初ハ大さあお初とよ

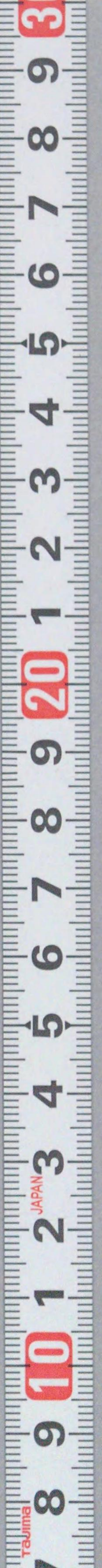


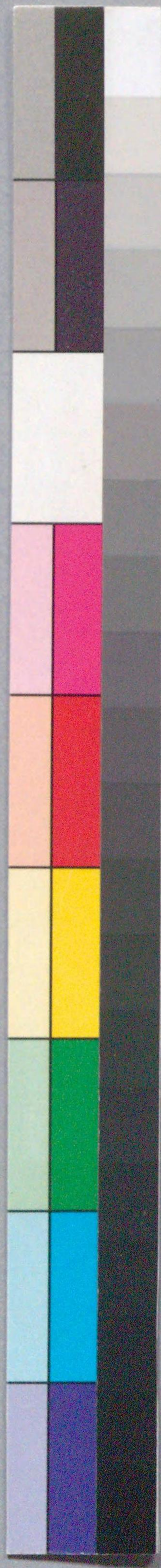


208
特 12
635

国立国会図書館 春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用





国立国会図書館 春色初旭の出 4編 208-685



ガラス使用

